

第8回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会 議事録

1 日時

平成30年1月18日（木） 15時30分～17時00分

2 出席者

（委員）小林勝衛委員長、小林利安委員、堀信幸委員、澤田誓委員、瀬尾英三委員、安藤正則委員、古川雄二委員、飯沢賢一委員、三村成子委員、野崎靖之委員、長久保重行委員、小林成吉委員

（泉崎村）村長、副村長、教育長（以下事務局）

総務課長、総務課企画財政グループ長、総務課企画財政グループ主任主査
総務課企画財政グループ主事

3 議題

- （1）泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略の各施策の実施状況について
- （2）地方創生加速化交付金（泉崎村魅力発見発信事業）の実施状況について
- （3）地方創生推進交付金（産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業）の実施状況について
- （4）その他

4 決定事項・確認事項

- （1）議題（1）について、事務局から実施状況を報告。
- （2）議題（2）について、事務局から実施状況を報告。
- （3）議題（3）について、事務局から効果検証の報告を受け評価を決定。
- （4）その他について、今後の日程について事務局から報告。

5 発言者名、発言者ごとの発言内容

以下のとおり

司会(総務課企画財政グループ長)	<p>－開式－</p> <p>本日は、ご多忙のところ、第8回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。皆様おそろいでございますので、只今より、会議の方を始めさせていただきます。</p> <p>なお、本日、教育委員の山田様、農業短期大学の佐藤様におかれましては、都合により欠席とのご連絡をいただいているところでございます。</p> <p>はじめに泉崎村長久保木正大よりご挨拶申し上げます。</p>
久保木村長	<p>－村長あいさつ－</p> <p>ちょっと風邪気味で、インフルエンザではないと思っておりますが、今、会長が今年のインフルエンザは熱が出ないよと言いますから、ちょっとびっくりして、なかなか直りませんで、万が一だと大変なので、マスクのままお話しをさせていただきます。</p> <p>今日は、第8回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会のご案内を申し上げましたところ、大変多くの委員の皆様にご出席をいただきまして、心より感謝申し上げます。</p> <p>皆様にご案内のとおり、人口減少問題というのは、日本全体の抱える大きなテーマ、問題になっています。過去、7回、8回とずっと、中長期展望の中で、しっかり施策、政策の中で対応をして行こうと、やってまいりましたし、これからも、計画を実行しなければ、まったく意味がない、それだけ遅れるということでございますので、そんな視点で真剣に取り組んでまいります。</p> <p>幸いですね、福島県の中でも中通り地方、県南の白河地区は意外と恵まれている方だなど、実感しております。</p> <p>しかし、人口減少問題という深刻です。西郷村さんは、ほとんど心配はないようでありますけれども、その中で、これから人口増の対策ということを考えたときに、やはり、県南、あるいは中通り中心にお互いに魅力作りをして、みんなに住んでもらう、住民を増やして行く、他所から来ていただくというところが、残念ながらメインになってしまうのかなと、若い方々の出生率が急に上がるわけでもありませんし、その辺が非常に苦勞するところでもあります。</p> <p>これから今までの経緯も事務担当から説明をさせていただきますけれども、今までなだらかだった人口減少が、急激に減少をしている状況でございますので、深刻だなどと思っております。</p> <p>今、泉崎村の場合、子供が1学年、幼稚園だと平均60人を超え</p>

る状況でいます。ですから、幼稚園は3学年ありますけれども、180名を超えていますし、中学校も3学年ですから、200名くらいいますね。

この状況を維持できればと思っていますが、一昨年、産まれたのが35名。で、29年度、まだ3月まで期間がありますけれども、予定は20名の前半ということでありまして、今も悩んでいるのですが、その半分になってしまうということで、真剣に対応しなければと思っています。

そのようなことがあって、やっぱり、若い人が魅力を感じて、子育て支援をしっかりとやる。教育も同様にしっかりとやるという姿勢をしっかりと示すことによって、魅力作りなるという思いをもっています。

その辺をメインにして、これからも人口の維持を考えて参りたいと思っています。

今後も皆様方のご意見、懇親会も含めて、お話の中で、なるほどと思うところが随分とございます。そんなことも取り入れながらやりたい。

それで、新年度、間もなく議会に当初予算の、定例の3月議会が2ヵ月後にありますけれども、その中でも、子育て支援についても、施策についても、色々とやろうとしています。

まず、議会の皆さんにもご理解をいただけるだろうと思っていますが、経済負担があっては、やはり魅力つくりにならないということで、給食費等を、まずは半減するだけの予算を確保するということを考えております。

それから、全体の子育て支援をすると、経済の応援をするという意味で、考えているのは、この前、川内村が新聞に出ていました。

我々は、もっと前から計画はしていたのですが、幼稚園入園前のお子さん、一人だけ保育所を有料で利用していますけれども、二人目からは無料になっていますが、ご家庭で、見られているところ、ご家族についても、子供さんがいるのには変わりがないなど。

そして、ある意味今までは、ご両親が勤めに行っているから保育所が必要で、そこを全面にバックアップしようというところだけ、考えがちだったのですが、それだけだと逆に、保育所に行かないご家庭については、何の恩恵もない、不公平だと、やはり子供を育てているという意味では、同じだという意見が多くございました。

それで、その辺を、同等に子供たちを大事にするという意味では、ご家庭で預かっている、その家族についても、どれ位になるかは分

	<p>かりませんけれども、相当な手当て、援助をしていこうということで、これも今、教育委員会を中心にどれ位の予算になるのか、確保して、そこもしっかりと手当てをしていきたいということを考えています。</p> <p>その他、今日は色々、説明をさせていただきますけれども、今までやってきたもの、今まで計画をしてきたものを、確実に実行に移すということ。</p> <p>そして、その経過でどんな状況がでていくか検証をしながら、しっかりとやっていきたいと思っています。</p> <p>6次館の運営とか、あるいは、東口の開設もスタートしておりますので、地域の活性化という意味では、早く軌道に乗せたいなど、早く完成させたいなどという思いで、やってまいりたいと思います。</p> <p>どうかこれからもしっかりと、見守っていただき、そして、良き提案をしていただければ、ありがたいなと思います。</p> <p>今日は、有意義な1日になるようによろしくお願いいたしますと思います。お世話になります。</p>
司会	<p>続きまして、小林委員長よりご挨拶を頂戴いたします。</p>
小林委員長	<p>ー委員長あいさつー</p> <p>改めまして、こんにちは。新年のお忙しい中、ご苦勞様でございます。</p> <p>私は、委員長を仰せつかっている国民健康保険運営協議会の小林でございます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、年始の大変お忙しい中、委員会に御出席をいただきありがとうございます。</p> <p>前回、第7回の会議においては、平成28年度の事業に対する評価及び検証を行ったところでありますが、本日の会議においては、総合戦略の中に盛り込まれている事業の中間報告と地方創生推進交付金を活用し実施している事業の評価などを議題としております。</p> <p>村の方では、現在、来年度に向けての予算編成を行っている段階と聞いております。</p> <p>新たな課題が出てきたという場合におきましては、村の取組に関して、改善を求めることもできるとお伺いしておりますので、個別の施策、事業以外についても忌憚のない、いろいろな意見を頂ければ、よろしいかなと考えております。</p> <p>なお、本日は、委員会終了後、懇親会も予定されているということでございますので、どうぞ最後まで、よろしくお願いいたしますを申し上げます。</p>

司会	<p>たいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
司会	<p>—議事—</p> <p>続きまして、次第の議事に移りたいと思います。 ここからの進行は、小林委員長にお願いしたいと思いますので、 よろしく願いいたします。</p>
小林委員長	<p>それでは、議題に入らせていただきます。 円滑な進行にご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。 それでは、早速ではございますが、議事に入らせていただきます。 次第の4、議事の(1)について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、議事(1) 泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略の 各施策の実施状況について、ご説明いたします。 使います資料は、資料1と資料2を使って、ご説明いたします。 資料1は資料2の担当課評価をまとめたものになっています。 資料1の見方なのですが、基本目標1、ひとを育むとありまして、 総合戦略の中で、基本目標と数値目標を定めております。 それを今回、上に追加して記入してあります。 基本目標1としては、ひとを育む。数値目標が、出生数が平成2 6年度47人だったものを5年後も同じ数値に維持しましょうという 目標だったのですが、28年度の実績ですと35人。 婚姻数は、98組、22年度から26年度までの平均の数値を、 31年度には100組にしましょうという目標だったのですが、2 8年度の実績だと94組になっております。 備考欄にC→Bと書いてあるかと思いますが、前回の評価から変 わったところが、備考欄に書いてありまして、評価が変わったとこ ろを中心にご説明したいと思います。 まず、4番として、学校などを通じた健康教育・食育の充実事業 ということで、今まではC評価だったのですが、B評価になってい ます。 なぜ、評価が上がったのかといいますと、資料2の4ページをご 覧いただきますと、3段あるうちの一番下の評価のところの担当課 評価Bとありますけれども、総合学習の時間に栄養士による食育教</p>

育を実施したということで、今まで実施していなかったものを新たに実施したということで、評価が上がっております。

資料1に戻りまして、2ページの基本目標2、しごとをつくる、こちらの数値目標は、就業者数、平成26年が4,774人だったのを平成31年度に5,500人にしましょうという目標だったのですが、28年度の実績ですと、3,994人と大きく減っております。

原因として考えられるのは、除染作業で就業されていた方、その部分を、人数に見込んで目標を立てていたのですが、除染作業がなくなって、そういった方の雇用が減ったために人数が減っているのではないかと推測しています。

続きまして、評価の変わったところでは、7番、企業誘致事業、こちらが、A評価だったのですが、B評価になっております。

この原因は、工業団地なのですが、販売できる工業団地がなくなってきておりまして、実際、29年度は販売ができていないということで、評価が下がっております。

次の10番、新規創業者・新規事業展開補助金事業としましては、C評価だったものがD評価になっております。

こちらの原因は、新規創業が1件もなかったということと、補助金事業としても何も実施できなかったということで、評価が下がっております。

続きまして12番、観光案内所を兼ねた直売所建設の検討事業、こちらは、C評価からB評価になっております。

これは、今、4号線のところに建設をしております6次産業館。それが間もなく完成して、操業が始まるということで、評価が上がっております。

次のページに移りまして、基本目標3、ひとの流れをつくるの数値目標は、移動数、転入から転出を引いた数値が、平成26年ですと△32人だったのですが、平成31年度には△20人まで、減り幅を減らしましょうということだったのですが、28年度の実績は△35人になっております。

観光客入込数については、87,167人を95,000人まで増やしましょうということだったのですが、実際には91,891人となっていて、増えてはいるのですが、目標には達していない状況です。

25番、泉崎村の魅力発見事業、こちらはB評価だったものがA評価になっております。

これは、後ほどご説明いたしますが、地方創生加速化交付金を使った事業で、事業の充実を図ったということで、評価が上がっております。

	<p>続きまして 26 番、泉崎村の特産品を活かした食育推進事業につきましては、D 評価が C 評価に変わっております。</p> <p>こちらが変わった原因としましては、学校給食で使う泉崎村のものの使用率が上がったということで、評価が上がっております。</p> <p>続きまして 31 番、指導者及びスポーツ推進員の育成事業につきましては、C 評価から B 評価になっておりまして、こちらは、内容の充実があったということで、評価が上がっております。</p> <p>続きまして 33 番、文化財マップや説明板の設置事業につきましては、C 評価から B 評価になっておりまして、文化財マップが今年度中に完成をする予定ですので、評価が上がっているということになります。</p> <p>次のページに移りまして、基本目標 4、安心をつくる、こちらの数値目標が、自主防犯組織数、0 を 5 組織作りましょうということだったのですが、まだ、実際にはできていません。</p> <p>地域密着型サービス利用者数、2 人を 29 人にしましょうという目標なのですが、28 年度の実績は 2 人です。</p> <p>こちらは、間もなく地域密着型サービス施設が稼動すれば、数値は上がってくるかと思えます。</p> <p>35 番、世代間交流事業の推進・実施事業につきましては、B 評価から A 評価になっているのは、実施事業の目標を達成したということで、評価が上がっております。</p> <p>続きまして 43 番、泉崎村ボランティア連絡協議会の機能強化事業につきましては、C 評価から B 評価になっていますが、これは、ボランティア連絡協議会に加入している団体が 1 団体増えたということで、評価が上がっております。</p> <p>次のページに移りまして、基本目標 5、まちをつなぐの数値目標は、定住自立圏協定に基づく事業、16 事業から 41 事業に増やしましょうということだったのですが、こちらは変更がありませんで、16 事業ということでした。</p> <p>以上、簡単ですが説明を終わります。総合戦略で実施している事業の中間報告になります。</p> <p>ただ今、事務局から説明がございましたが、皆さんから、何かお聞きしたいことがございましたら、お願いしたいと思います。</p> <p>はい、長久保さん。</p> <p>4 ページの 43 番、ボランティア協議会機能強化のことなのですが、先日、小学校を訪問したら、小学校で色々な授業の中で、社会科な</p>
小林委員長	
長久保委員	

<p>杉田教育長</p>	<p>のかな、村の言葉、あるいは農作業体験とか、あるいは、そのほかの授業でも、実際には先生が非常に忙しい訳で、そういうもので助けていただければ、非常に子供たちも、近所もおじいちゃん、お父さんお母さんの年代の方とか、と授業を進めれば、子供たちのやる気も変わって来るのではないかという事で、出来ればボランティアをやっている方を探したいのですという話があったので、30年度事業として取り組むとか、教育長さんは把握されていますか。</p> <p>今、長久保さんがおっしゃったボランティアの件についてですが、30年度から、学習指導要領が大きく変わりました、正しくは、実施をするのは2020年からののですが、30年度から先行実施ということになっています。</p> <p>そこでは体験活動が、非常に重視されています。</p> <p>今、お話があったような図工で鋸を使うとか、それから、英語学習も入りますので、英語学習の補助とか、鉋を使うとか、ミシンを使うとか、そういう実技が、学校の担任が教えるのですけれど、みんながみんな、それ相応の技術、知識を持っているのかというと、なかなか間に合わなくて、指導書を見ながら、ミシンの使い方を教えたり、鋸の使い方を教えたりしている。</p> <p>そこに、地域にいる実技を実際に持っていて、それで生計を立ててきたという方が、入っていただければ、子供たちの学習は、非常に深まるし、定着するということになる所からきています。</p> <p>それで、教育委員会では、学校支援のボランティアということで、30年度に備えて、人的な配置が出来るような整備をしようということで、今、チラシを作成中で、全戸に配付をして、こういう技術を持っている人はいませんか、もしよかったらお手伝いをしていただけませんか、というチラシを2月、3月のうちに配ります。</p> <p>それで、データベースにします。そして、4月からの学習のときに学校から要望があったら、それについて、この方をどうぞとマッチングをしますということで、今、取り組んでいる最中でございます。</p>
<p>長久保委員</p>	<p>それで、私も、校長先生とお話しをしたのですが、専門的なことは分からないのですが、お手伝いは出来ますよ、出来るやつがあれば出来ますよと。</p> <p>実際に畑を作るのに提案をしたり、耕したところにサツマイモを1年生と2年生が植えたのですね。</p> <p>そしたら、収穫祭が急に言われたので、行けなかったものですか</p>

	<p>ら、1年生と2年生から、私にお礼の手紙を全員から貰ったものですから、そのお礼に学校に行ったのです。</p> <p>そしたらその話なものですから。</p> <p>例えば、学力はともかく、子供らが楽しい勉強をできるというのは、1番だと思います。</p> <p>勉強のやる気とか、やる気があって楽しく出来る。そういうものが、子供たちに、できれば、当然、親御さんも喜ぶますよね。子供たちが楽しく出来るということは。</p> <p>当然、学力も上がって、上手い仕組みになるのではないかと考えています。</p> <p>できれば、私も協力が出来る場所はします。これからも出来る限りしますとお話ししました。</p> <p>地域の人が、学校に顔を出す。当然、子供たちも一生懸命やる。一生懸命やれば学力も上がる。学力が上がれば、当然親も喜ぶ。親の望みどおりになる。</p> <p>それが泉崎に住むという力になるのではないかとと思うので、教育委員会ぐるみでボランティアを募集して、村民の得意な分野のある人を、学校に自由に入れるようにすれば、あるいは、お手伝いが出来るようにすればいいのではないかと思いました。</p>
杉田教育長	ありがとうございます。
小林委員長	一小も二小も実習畑みたいなものをやっているの。
杉田教育長	はい、あります。畑があります。二小は校地内に畑があります。一小はどなたかのを借りてあります。本柳さんの家のちょっとどこかは。
長久保委員	本柳さんって、菊地行雄さんの後の、倉庫の後あたりで。
三村委員	菊地行雄さんって、小学校のところの。
長久保委員	小学校の三角になっていて、丸豊の方に入って行く。
三村委員	本柳さんって、正孝さんですか。
長久保委員	本柳さんって、元、何年か野菜を作っていて、その後作っていなかった畑なのかね。

小林委員長	よろしいですか。
杉田教育長	今、長久保さんがおっしゃるとおりに、子供たちの学力のつき方が、すごく違います、楽しくやっていると、体から学んだものは、絶対的ですので、そういう活動、ボランティアを学校に取り入れて、積極的に進めて行く考えであります。
小林委員長	他にございませんか。 2ページの就業者数、除染関係がなくなったから、就業者数が減ったとの説明があったけど、村内の雇用の数が減少傾向にあるということは、企業の数も減っているのかな。 従来の企業で、佐野さんが閉めたとか。
事務局	すみません。企業数までは調べていません。
小林委員長	新規というのは、ないということね。
事務局	はい、新規創業はありません。
小林委員長	工業団地で分譲するところがなくなったから、新しい企業の誘致が今現在ないと。
事務局	村内の企業が買い増しをしたというのはありますけれども、新規で他所から入ってきたというところは、ない。
小林委員長	村長は苦しいようだから、副村長。 新たな企業を誘致するとか、安い土地を造成して、誘致するという考えはまったくないの。
岡部副村長	今の段階では、造成をした工業団地が完売をしたという形になっていて、本当は売り地ではなかったのですけれど、空いている部分を売りましょうということで、100%完売になっています。 後は、大きく土地が空いていて、新規で誘致をするような場所は特にない。 造成をする部分については、まだ、何も計画はないということでありまして、今後は、オーダーメイドといった形で、進めるようになるのではないかと思います。

小林委員長	工業団地はまったくなかったの。
岡部副村長	工業団地は1区画だけ。
小林委員長	錠剤さんの手前の、こっちから入って右側の佐藤製線との間は、ちがうの。
小林利安委員	横に長細い所。
久保木村長	あそこは、スズミ。
小林委員長	スズミ、それは、既存のスズミさん。
岡部副村長	そうです。工場を増やす形でした。
長久保委員	スズミ精工さんのスズミ。
岡部副村長	そうです。
小林委員長	そうすると工業団地はもう満杯。あとは藤田さんのところもね。
久保木村長	今、仮置き場に行っているところが、
小林委員長	元のヘリポート。
久保木村長	ええ。あそこは数千㎡、7～8千㎡ある。あそこも2年ぐらいで持ち出しが出来るので、その後は、是非、進めたいなと思っています。
小林委員長	中からの事業展開ではなくて、新しい事業を持ってくると、他所から若い人が来るとね。交流が生まれると思いますね。 除染の汚染土と言えば、陸上競技場は30年度で終るの。
岡部副村長	陸上競技場はですね。環境省との協議の結果、6月末までには終わります。年度を越えても、年度の間を休むということなく、引き続きずっと6月末まで運び出すという話しです。 ですから、設計調査をしながら、原型復旧をしていく形で、今現

	<p>在進んでいます。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>陸上競技場の汚染土が終了すれば、村長さん、若者を集める方策を何かね。</p>
<p>久保木村長</p>	<p>私はこの前に、復興局行ってきまして、ちょっと希望を言ってきたのですが、原型復旧だけではなくて、災害ではないので、やむなく、汚染土を置いて、かなり乱れてしまっという状況なので、できれば、フィールドの中は人工芝でやってみたく、そうすることによって、色々なスポーツが、ゲートボールでもいいですし、サッカーなんか人工芝で十分出来るのですね。</p> <p>ですから、やりたいという話をしてきたのですが、費用対効果ですなという話を言われてきましたが、粘り強くやってみたく。</p> <p>人工芝だと手入れの問題も少ないので、見た目も綺麗なものですから、是非やりたいと思っているのですが、やっぱり天然の芝よりも相当掛かると思うのですね。</p> <p>ですからその辺がネックになるかなと思っています。</p> <p>ある意味、福島県は犠牲になっているのですから、その辺をアピールしようかなと思っています。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>魅力的なスポーツ施設を作れば、子供らが合宿来たりすれば、また、それで交流も出来るしね。</p> <p>皆さんから、何かございませんか。</p>
<p>杉田教育長</p>	<p>ちょっとすみません。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>はい、教育長。</p>
<p>杉田教育長</p>	<p>別な話になるのですが、2ページのしごとを作るというところに県のアンテナショップへの出品事業と書いてありますが、情報があつたら教えて欲しいのですけれど。</p> <p>昨日の県民紙に日本橋にあるアンテナショップでイベントをやつて、大変盛況だったと載っていたのですけれど、この内容を見ると出品をしなかったという、物がないからという話だったのですけれども、物だけではなくて、以前作った冊子とかチラシを置けないのか。</p> <p>日本橋のお店を見たことがないので、よく知りませんが、置けないものなのか。そこらへんを確認したい。</p>

事務局	<p>私も問い合わせをしたことがないので、正確なことは分かりませんが、市町村の冊子は置けないと思います。</p> <p>今、考えておりますのは、6次産業館ができて、特産品が開発できれば、そういったものを売り込んでいきたいと考えております。</p> <p>(意見なし)</p>
小林委員長	<p>それでは、他にないようでございますので、議事(2)について、事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>はい。それでは、議事(2)地方創生加速化交付金(泉崎村魅力発見発信事業)の実施状況について、ご説明いたします。</p> <p>資料3をご覧ください。</p> <p>こちらの事業は、昨年度、28年度に地方創生加速化交付金3,600万円を活用して、実施した事業になるのですが、今年度は交付金がきまませんので、村の予算で実施した事業の内容になります。</p> <p>1ページ目の個別事業1として、烏峠を中心とした取り組み。先ほどの総合戦略の取り組みに載っていましたが、泉崎村の魅力発見事業と同じような事業になっております。</p> <p>予算額としては50万円で執行済額が256,193円、KPIとして3つ設定しておりまして、烏峠案内人の養成研修会の開催件数、魅力発信に係る大会イベントの開催、村伝統芸能継承者数(団体数)の3つ設定しております。</p> <p>達成率については、ご覧ください。記載のとおりでございます。</p> <p>次のページ2ページに移りまして、具体的な取り組み内容なのですが、4月8日に烏峠かたくり祭りを開催しまして、その他、自然観察会等を記載のとおり開催しております。</p> <p>担当課の評価としましては、B評価になっておりまして、子どもに烏峠の魅力を伝えることにより、その子の親、祖父母関係の烏峠来訪者が増えたということになっております。</p> <p>30年度におきましては、村内だけではなく村外の人にもPR出来るイベントを開催したいと考えております。</p> <p>次のページ3ページに移りまして、個別事業としまして移住者限定・賃貸住宅斡旋に関する取組としまして、予算額2,148,000円、執行済額1,841,699円になっております。</p> <p>KPIとして設定してございました事業の方は、実施できていないのですが、下の具体的な取り組みとしまして、定住促進戸建</p>

	<p>住宅の募集チラシを作成し、新聞折り込みなどで配布することをしました。</p> <p>また、天王台ニュータウン PR のためにポスターを作成し、首都圏駅構内に掲出しました。</p> <p>移住希望者(e-村民)に泉崎村をもっと知ってもらいということで、バスツアー、そば打ち交流会、餅つき交流会を実施しております。</p> <p>次のページに移りまして、担当課の評価としましてはB評価になっておりまして、現在、定住促進戸建住宅の募集をしております、昨年に比べて問い合わせが増えている状態となっております。</p> <p>30年度につきましては、田舎暮らし体験や村民との交流会を実施し、泉崎村を良く知ってもらい移住者を増やしていきたいと考えております。</p> <p>また、ポスター掲示によるPR効果は薄いと感ずるため、駅構内でPR動画を放送できればと考えております。</p> <p>以上、簡単ですが、地方創生加速化交付金の説明を終わります。</p>
小林委員長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>只今の説明に対しまして、皆さんからお聞きしたいことがございましたら、お願いします。</p> <p>鳥嶋の神社、文化庁とかの補助金はないの。</p>
岡部副村長	<p>ないです。鳥嶋の稲荷神社に限らず、村の文化財に指定されているのですけれども、例えば、補助金って国から、あるいは県からもらうという形になると、県の文化財指定、国の文化財指定となれば保存や修復とかの補助金はあるのですけれども、今の段階では、ないのですね。</p>
小林委員長	<p>ちょっと、みすぼらしいというか。</p>
岡部副村長	<p>みすぼらしいというか、朽ち果てているような状況になってきていて、なかなか難しい部分があるのですけれども、前に、宮司に対して、今、山ガールというか、女性たちがくるような形にPRして、全国に寄付を募ったら良いのではないかと、話をしたこともあるのですけれど。</p> <p>確かにすばらしい、彫刻の神社だということで、あのままにしておくのは。</p> <p>なかなか村としての補助金を出すという形になると、神社仏閣は難しいと思います。</p>

小林委員長	白河は、里山みたいなことをやっていなかったか。白河市の久田野あたりで、何か。
岡部副村長	あれは、白河市の本沼地区で花見山を作るということで、桜を植えたりしていると思います。
小林委員長	鳥峠は泉崎のシンボルだからね。何とかこれを活かして欲しい。それから、数日前、テレビで放映されました戸建住宅、3戸、完成したよね。
久保木村長	完成しました。
小林委員長	募集は、始まったの。
久保木村長	募集中です。どんな状況と聞いている。
事務局	すみません。募集状況については確認をしていなかったです。確認します。
長久保委員	例えば、今、本沼で山作り、一生懸命やっていますね。毎年1回くらい植えていますね。 鳥峠もそういう木を植えられるのですか。保全林となっているので。
岡部副村長	保全林というのは、そのままにしてくれということだと思いますけれども、植樹をすることについては、届出があれば良いのではないかと思います。 例えば、皆で1人1本、桜の木を植えましょうとかで、桜の施設にするとか、吉野の国ではないですけども、ただそういったときに、自然保護協会に言わせると生態系が変わってしまうとか言われてしまう。 色々難しい部分があるのですが、ただ、そういった部分は大丈夫だと思います。
小林委員長	はい、三村さん。
三村委員	私、4月8日に鳥峠のかたくり祭りがあるので、初めて参

	<p>加したのですけれど、実際に登って見たら、大した花は咲いていなかったのですね。</p> <p>時期がちょっと早いという部分があつて。それでも、すごい人だったのでですね。</p> <p>だから、やっぱり色々な事業を考えていると役場の方たちも頑張っているのでしょうけれど、やっぱり、集まるだろうかと疑問視しないで、やることに意義があるかなと私は思いました。</p> <p>花が本当に、どこに花がある、という感じで本当に花が咲いていなかったのです。</p> <p>それでも、やっぱり鳥峠で、そういうことをやる、だから行こうとか、かたくりってどんな花という、かたくりの花を見たことがない人もいたと思いますけれど、上に登って見たら豚汁のサービスとかもあつて、何か皆が和気藹々としていて、登ってきて良かったなという感じだったのでですね。</p> <p>だから、集まるだろうかと、あまり老婆心ばかりもっているのではなくて、なにかをやるということに意義があるのかなと。</p> <p>私も登ってきて良かったと改めて思いました。泉崎村民として、あまり、鳥峠に登ったことないのですけれども。</p>
岡部副村長	<p>鳥峠は子供たちも、一小も二小も遠足ではないのですけれども、登っているみたいですね。</p>
小林委員長	<p>花より団子だね。</p>
長久保委員	<p>鳥峠なのですが、村の文化財のパンフレットは、この前にもらった村のPRのものと文化財の色々と載っているもの。</p> <p>それに鳥峠の祭りの様子を版画にしたやつがありますよね。</p> <p>全国で特選をもらったもの。</p> <p>それは野崎さんが版画を彫って、何十人かの版画を1枚の絵にしたものなのですね。</p> <p>さっきの話でなくても、例えば、6次産業館で何か、村の特産品ができましたと、そして、鳥峠で祭りをやって、頂上に行けばその特産品が食べられるとなればいいですよ。</p> <p>無償で提供をすとか、あるいは半額で提供しますとかをやれば、残ると思います。</p> <p>今は、特に先ほど副村長さんが言ったように、グルメというのは特に若い女性の方が求めて、意外と全国に、何かイベントがあれば女性方が行くと。</p>

<p>小林委員長</p>	<p>そんなことを狙いながら、諦めないでやること大事で、そのうちに道路脇とか整備をして花を植えていけば、来年は小さい木だから花が1つ位しか咲かないけれども、20年も過ぎれば、すごい花が咲くということになると思うので、観光的なものは長く時間が掛かると思います。</p> <p>何年か前に祭りを復活させようということで、ちびっ子相撲大会をやるということで、土俵を作ってね。豚汁か何かを作っていたら大雨で、大雨で没になったことがあって、それ以来、もうやっていないのですけれど。</p> <p>鳥峠の祭りは、昔は臨時列車がでたという話をよく聞きますね。八朔祭りにね。</p>
<p>長久保委員</p>	<p>私も後から聞いた話なのですけれど、泉崎駅を昔は蒸気機関車が歩るったのですね。</p> <p>その蒸気機関車は旅客の列車で、そこから鳥峠まで行列だって話だったです。</p> <p>今の時代そこまでは無理だとしても。</p>
<p>三村委員</p>	<p>シャトルバスでね。お祭りのときにシャトルバスで送り迎えしてもらってね。私が嫁に来たときから、随分やっていましたね。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>もみじも綺麗ですよ。もみじ祭りね。すごいもみじなのです。</p>
<p>長久保委員</p>	<p>四季折々、やればいいよね。</p>
<p>三村委員</p>	<p>やれば人が集まるよね。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>戸建、何か分かった。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。戸建住宅の申し込み状況なのですけれども、今現在、申し込みがあるのが村外1件、村内2件、合計3件です。</p> <p>申し込みの準備中というのが2件ありまして、今のところ5件がくるという予定になっています。</p> <p>既に申し込みのあった昨年とその前の年に完成をしております、1号棟と2号棟の当選者の方なのですけれども、1号棟は白河市の方、2号棟は伊達市の方が当選をされて入居している状況になっております。</p>

小林委員長	締め切りは何時なの。
事務局	申し訳ございません。調べていなかったです。
小林委員長	戸建てが今、天王台に3棟目完成したけれども、八雲の方、二小学区も考える必要がありますよ。
久保木村長	個別に若い人たちに、機会のあるたびに話をするのですが、いらないという答えが返ってくるのです。 チラシを出してそのままなのですよ。1回出して終わり。これがいかにも役所的なのですが、これはもう少し周知させないと広がらない、魅力を感じないですね。 これは、行政、我々の、特に担当の努力がまだまだ必要だなという感じがありますね。 潜在的には相当あります。希望が。
小林委員長	一小学区、天王台に3棟できて、バランス取るのも考えてもいいのかな。
久保木村長	そうですね。
小林委員長	何か皆さんからありますか。 はい。安藤さん。
安藤委員	賃貸住宅の斡旋なのですが、移住者もすごく大事なのですが、村内の次男、三男、長男を出さないという、ちょっと消極的なのですが、泉崎にそのまま居て欲しいという面から考えると、泉崎で生まれた、生まれ育った人たちにも、何らかのあれがあってもいいのかなと気がします。
小林委員長	村外対象者だけじゃなくて。
安藤委員	来てくださいだけじゃなくて、うちから出さないよという。ちょっと、消極的なのですが。
小林委員長	どうしても人口増加という事業を考えてしまうと、そのようになりがちなのですけど。

事務局	<p>前回言った空き家対策どうなったの、調べたのか、アンケート。</p> <p>空き家対策事業につきましては、担当課の方では何も進んでいない状況になっていまして。</p>
小林委員長	<p>件数も何も把握していないの。</p>
事務局	<p>申し訳ございません。</p>
小林委員長	<p>昨日か一昨日かテレビでやっていた、大手が今度、空き家対策の事業に動き出すと。</p> <p>村内の空き家はかなりあると思うのね。</p> <p>そういうものを把握して、空き家でおくよりも、例えば5千円でも1万円でも、格安で低所得者に貸すとか、共働きしている人に貸すとか、斡旋を各町村でもやっていると思うのね。空き家対策。</p> <p>担当課じゃなくてね。</p> <p>堀さん、どうですか、堀さん立場から見たこの泉崎、前にも聞いたと思うのですけれども。</p>
堀委員	<p>ここに移住希望の方には、バスツアーとか、そば打ち交流会とかをやられているようなのですけれど、例えば、このそば打ち交流会とかを、銘打って、例えばハトバスとか観光会社に売り込みをして、そのコースに入れてもらうとか、それで泉崎の魅力を分かってもらって、ここにということもあるかと思います。</p> <p>あと、先ほど、市町村の冊子とか、住宅の斡旋とか、ありますよね。PRのパフレットとか、泉崎も毎月毎月会報とかを出していますよね。それをうちの会社でも、本社、大宮や福島県や白河市や泉崎村でも置かしていただいています。パフレット。</p> <p>今、うちの会社のPRのパフレットよりも多く場所をとって置いていますので、やはり、そういった活動を地道に広げて、1人でも多くの方に知っていただくという活動がやっぱり、それをもっとどんどん積極的にやって行く。</p>
小林委員長	<p>そば打ち交流会というのは、いつも同じメンバーなの。</p>
岡部副村長	<p>出席者ですか。そば打ち交流会については、来ていただく方が大体、決まっている状態になっていますね。</p> <p>さっき、長久保さんが、例えば、子供たちの申請に対応して色々</p>

	<p>な生活体験をやりたい。</p> <p>そば打ち交流会とか、田植え体験とか稲刈り体験とかをある程度行っている中で、色々、子供たちも合わせてきてもらっているのですけれども、そういったものを今後改めて、子供たちに出席とか、参加機会を多くしてやりたいと考えている状況なのです。</p> <p>バスツアーなども、桜ウォークには間に合わなかったのですが、バスツアーで、関東地方の都会から来てもらって、色々やったのですが、これは日帰りでは駄目なので、泊まりでツアーに参加したいという意見もあったのですけれど。</p> <p>ただ、その人たちは天王台住宅に、例えば団地に、移り住むという感覚ではなくて、観光という目的が強くて、なかなか、興味を持っていただけなかったという状況があるのですけれど、しかし、そういった、今までみたいに、村を見に来てもらって、定住を考えるようなコースを案内したいと考えています。</p>
小林委員長	<p>そば打ちも餅つきも、要するに天王台に来た方を退屈させないための事業でしょう。</p>
岡部副村長	<p>はい。</p>
小林委員長	<p>新たに人を呼ぶ事業じゃないでしょう。</p>
岡部副村長	<p>本来であれば、そういった経験を東京の方へ、情報を送って、じゃ俺も行ってみっかなという形をとって、定住を促すという計画だったのですね。</p> <p>そば打ち、あるいは餅つき、これらについても、こういう状況になったら、新しい交流の仕方もあるかなと前回の話の中ででたと思います。</p>
小林委員長	<p>田んぼの除草事業、稲刈り等の愛郷の輝き事業に関しても、大体、天王台と八雲の人が中心になっている。</p> <p>ただね、桜ウォークは毎年盛況ですね。もう一手を加えて、泉崎の魅力を知っていただく。</p> <p>ただ行って歩いて、豚汁食って、秋刀魚を食うだけではなくて。700人、800人でしょ。</p>
岡部副村長	<p>村外からの方もけっこう多いのですね。</p>

小林委員長	<p>結局、ただで食べて帰るじゃない、来たということは泉崎を知ってもらおうこと、何かを掴んでいくのですから。</p> <p>悩みどころですね。</p> <p>なんで、空き家と言っているのか。</p> <p>今、盛んに、団塊の世代が田舎暮らし、無農薬農園で、自分で野菜を作って食べるという方が、毎週テレビでやっていて、多いのですね。のんびりと田舎で暮らしてみたいという人が。</p> <p>その空き家対策を、こういう物件もありますという、把握をしておいて、何かしないと、駄目だね。</p>
杉田教育長	<p>ちょっとよろしいでしょうか。</p>
小林委員長	<p>はい、どうぞ。</p>
杉田教育長	<p>先ほどの教育改革に関連してですが、30年度から3年生から英語が始まります。</p> <p>3年から6年の間、4ヵ年でどんな子供をつくるのかと言いますと、簡単な英会話ができる子。</p> <p>泉崎村教育委員会で考えている子供の姿としては、子供が店に買い物に行ったとき、向こうから外国人がトコトコ歩いてきた、そういう人を見かけたら、進んで話そうとする子供と、話すことができる子、Where you from?と話しかける子、そういう子供を4年間で、これから育ててくださいという方針がありまして、育てていこうとしています。</p> <p>ですから、これから10年、20年経つと教育の歩みはゆっくりですけど、村内の人たちの3分の1くらいは、簡単な英語が話せる人になるはずなのですね。</p> <p>今度は、今を見ます。今ですけども、世界では人口の増えている所があります。それは、どんな所か、とても住みよい街なのですけども、どんな住みよさがあるかという、色々な言葉が話せる場所であったり、それに伴って、色々な人が住んでも大丈夫な文化であったり、食べ物であったり、どんな姿で居ても、どんな服装で居ても、それが、変な目で見られないという多民族の所が人口が増えている。</p> <p>今、須賀川とか泉崎を見たときに、泉崎でも100人近くの外国人が居ます。</p> <p>でも、その人たちからの交流はまったくないし、その人たちは、いつもかたまって歩いていますよね。</p>

<p>小林委員長</p>	<p>それを見るこちら側も、ちょっと、話しかけようとする人はまずいないと思います。</p> <p>その100人の人が、もし、村民との交流があって、何か出会いがあって、そこから何か、良いことがうまれていくことが考えられないか。</p> <p>今の状態では英語をしゃべれる人がなかなか居ないので、ゆくゆくは、外国人と話すことが何の抵抗もなく出来る社会になって、いくスタートが30年度から始まっていきます。</p> <p>ですから、それに備えて、これは教育委員会の仕事かもしれませんが、今居る外国の人たちとの何か出会いの場、というものをもっていけないかなと思うのですけれど、皆さん如何でしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>他にないようでございますので、議事(3)の説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。それでは(3)地方創生推進交付金(産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業)の実施状況について、ご説明します。</p> <p>A3のカラー印刷のものと産業サポート白河社員総会という資料を使ってご説明いたします。</p> <p>まず、A3の方の資料をご覧ください。</p> <p>事業名としまして、産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業という事業をしております。</p> <p>この事業は、白河市、西郷村、矢吹町、泉崎村の4市町村で、共同で実施している事業になります。</p> <p>全体の事業では800万ほどなのですが、泉崎村としては、総額29万9千円、そのうち半分が交付金を使って実施しております。</p> <p>どのような事業をやっているかといいますと、こちらの冊子の方の1ページの(1)企業相談・訪問件数、次の2ページの(4)人材育成事業、次は5ページの(5)5S推進事業、次は7ページの(6)地域企業情報発信事業について、白河市から産業サポートに事業の委託をしまして、事業を実施している中身になります。</p> <p>KPIとして設定しているのは、こちらのA3の真ん中の黄色に色塗りされている下に3つありまして、県南地域の製造品出荷額、県南地域の就業者数、海外企業との商談件数の3つをKPIに設定しております。</p>

	<p>事業を始める前の最初の値ですと、県南地域の製造品出荷額だと8,623億円、28年、1年間経過したところでは57億円の増を目標として立てていまして、最終年度、平成32年に377億円増やそうという目標を立てております。</p> <p>次の2番目の県南地域の就業者数につきましては、当初の値が21,108人、1年経過したところでは172人増やしましょう。</p> <p>最終的には892人増やしましょうという目標になっています。</p> <p>次の海外企業との商談件数につきましては、当初は0件だったものを最終的には12件まで増やしましょうという目標になっておりまして、一番下のところで、28年度終了時点の実績としましては、海外企業との商談件数、こちらが1件あったということで、目標を達成していることになっております。</p> <p>県南地域の製造品出荷額と県南地域の就業者数につきましては、この資料を作成した時点では、まだ数値を把握できていなかったのが空欄になっております。</p> <p>裏のページに行きまして、D効果検証のところで、外部組織による効果検証、実施予定として30年1月、今回、評価をしていただくことになっておりまして、事務局の案としては、地方版総合戦略のKPI達成に有効であった、との意見として報告したいと考えております。</p> <p>有効であったという意見として、よろしいかどうか、お計りいただきたいと考えております。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
小林委員長	<p>はい。産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業の説明でございましたが、皆様からご意見を伺いたいと思います。</p>
長久保委員	<p>研修というのは、冊子の7ページにあるしらかわ5Sの会員名簿の会社だけなのですか。</p>
事務局	<p>申し訳ございません。産業サポート白河の実施事業の中身につきましては、白河市さんに詳しい話を聞いていなかったものですから、この会員だけの実施なのか、他の企業も参加できるのかまでは、ちょっと把握していませんでした。申し訳ございません。</p>
長久保委員	<p>もし、泉崎の企業さん、ここに来ているけれど、泉崎の企業が無ければ、泉崎の意見を出せないような気がします。</p>

<p>岡部副村長</p>	<p>産業サポートは、西郡、東郡の企業さんも含めて、産業サポートで、色々と訪問して、話を聞いたり、情報交換はやっているはずで す。</p>
<p>澤田委員</p>	<p>よろしいですか。私は、この産業サポートの理事をさせていただ いております。</p> <p>簡単に説明をさせていただきますと、今、岡部副村長からありま したとおり、対象企業につきましては、白河市だけではなく西白河 郡、東白川郡、要は県南地区の製造業の皆さんが対象になります。</p> <p>偶々今日は隣に朝日ラバーさんもいらっしゃいますが、朝日ラバ ーさんなんかは色々な活動の中で、大手企業さんなので経営指導と いう関わりではないですけれども、色々製造業の皆様の相互啓発の 一環として、色々ご意見なんかを頂戴しています。</p> <p>この活動の中では、相当数の泉崎で起業されている方の、製造業 の方の色々な悩みにお答えをしたり、あるいは色々な他の企業さん でやられているノウハウをお伝えしたりといった活動が無償で提供 しているところがございます。</p> <p>私ども東邦銀行は、実は東邦銀行から 1 名を出向させていただ いております。</p> <p>財務面、あるいは経理面の指導なんかについても、ご一緒させて いただくという流れですので、泉崎の小売などの企業さんについて も、相当、色々ご支援させていただいております。というところ が現状でございます。</p> <p>その中の 5 S の会というのは、整理・整頓・清潔にしましょうね と言う 5 S に賛同をいただいている企業が、この 1 から 1 5 という ことであります。</p> <p>直近ですと朝日ラバーさんも 5 S の会にお入りいただいて、皆さ んでそういう輪を広げていきましょうという活動をさせていただ いております。</p> <p>概略は以上です。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>ありがとうございました。 よろしいですか。</p>
<p>長久保委員</p>	<p>ここに産学官、多分、福島大学あたりからサポートを受けている のですよね。</p>

澤田委員	<p>福島大学さん、日大工学部さん、福島県立医大さんに高度医療技術なにかについても、県南の製造業の方で、何かお役に立てないだろうかということで、連携をさせていただいております。</p> <p>もっとうこういう輪を広げていただけると県南地域の製造業の方のレベルアップにもなりますし、横の連携もでてくるので、非常に有意義な企画ではないのかと思っています。</p>
長久保委員	<p>まったく確かにそのとおりで、自分が言う立場ではないのですが、福島大学さんの指導を受けているとすれば、福島大学では今度農学部、農業関連の学部を作るのですよね。そういうところと作業は。</p>
澤田委員	<p>正に長久保さんがおっしゃったところが課題でございまして、物づくりの企業さんというところだけで、進めているのですが、昨年の4月に来たばかりで、偉そうなことは言えないのですけど。</p> <p>実は物づくりの企業さん以外からも、こういうところに交えてくれという話がありまして、今後、今おっしゃったとおり、福島大学に農学部が新設されますけれども、そういった企業さんに対しても、指導を含めて地域で連帯をしてやっていく事業というのがでてくるのではないのかなと思います。</p>
長久保委員	<p>話が最初に戻ってしまうのですが、泉崎の6次産業館、今、特産物をこれから立ち上げていこうということですので、ここで泉崎が手を上げて、福島大学の農学部の最初のお客さんとして、ご指導をいただくということは可能ですよね。</p> <p>来年ではなくても、何年か後に。</p>
澤田委員	<p>ちょっとマターが違うので、この場で私が大丈夫ですと言うのはちょっと変な話なのですが、ただ、当然、我々も福島大学と強い関係がありますので、学長も実は当行のOBがやっていたりもしますので、それについては、しっかりとお伝えをしたいと思います。</p> <p>地元貢献という意味です。</p>
長久保委員	<p>今の関係で、泉崎を1番先にお願いします。</p>
澤田委員	<p>村長からもまたお願いします。</p>
久保木村長	<p>この前ですね。民報さんと民友さんおられますけれども、福島大</p>

<p>安藤委員</p>	<p>学と協定をしまして、あらゆる分野でお互いに指導とか、協力をしながらやっていきたいと思います。</p> <p>これは農学部ができるということきっかけに、協定を結んだという流れがあるのですが、その中で、色々と技術的に大学として、十分、我々に指導できる場所があるだろうし、大学側も机上の勉強が多いですから、そういった意味では現場、そのものを市町村は抱えていたり、施設を持っているわけですね。</p> <p>そういったところは、むしろ向こうでは施設等を利用して学んでいこうという思いがあるようです。</p> <p>ですから、持ちつ持たれつで、これからだと思いますね。急にあれご指導いただきたい、これやってくれといっても、多分、無理ですね。福島大学は。</p> <p>長久保さんあたりだとバンバン、100%教えられる状況だと思います。</p> <p>この間、近畿大学、マグロで有名な。近畿大学が福島県の市町村と何か交流をして、花の名前がちょっと、ハートの形になって、ちょっとでている。</p> <p>あれで、市町村的にも、すごく高値で取引がされているので、町の特産物にしようと、この間、テレビでやっていたようです。</p>
<p>久保木村長</p>	<p>大学側でそういうふうにどんどん、現場に密着したことが進んで行くと、大いに参考になると思います。</p> <p>福島県を通して、農業試験場に行ったりとか、色々なところと実践していますから、そういったところから得るものは大きいと思いますね。</p> <p>後は、白河管内で協定したいと思うところだと、西郷さんにも色々な農業施設があるのですね。家畜試験場とか色々な圃場がある。</p> <p>あるいは矢吹も、農業大学校があって、その中でかなり実績がある。ノウハウがある。</p> <p>そういったところでお互いに学べるということなのだろうと思います。</p> <p>これから大いに、連携して活用すべきだなと思います。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>他にございませんか。</p> <p>小林団長さん、こういうふうに人口減少になって団員の数、確保に苦労している感じしますか。</p>

小林成吉委員	<p>そうですね。村長さんが居る前でこんなことを言って何なんです が、今、定員 200、何名いるのですが、実質活動できるのは 100 名 くらいかなと思います。</p> <p>日中は会社勤めがあるので、日中は中々集まらないのですが、夜 も夜勤に入ってしまうとほとんど出て来れないのかなという気がし ます。</p>
小林委員長	<p>総務課長、役場職員の消防隊を何か作ったよね。</p>
星総務課長	<p>はい、組織されております。</p> <p>役場の方に、積載車に乗ってすぐに出るという体制になっていま すので、緊急の場合は、役場職員で対応が出来るようになっており ます。</p>
小林委員長	<p>分かった。今のところ火事がないからね。いいけれども。 他にみなさんからございませんか。</p> <p>(意見なし)</p>
小林委員長	<p>それでは、ないようでございますので、(4) その他について、事 務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>特にございません。</p>
小林委員長	<p>時間が来たようでございますが、今後の予定についてはどうなの ですか。</p>
事務局	<p>昨年 7 月に委員会を開催したのですが、今年も同じような時期に 委員会を開催したいと考えておりますので、その際はよろしくお願 いいたします。</p>
小林委員長	<p>それでは、皆さんから特にご質問等ございますか。</p> <p>(質疑なし)</p>
小林委員長	<p>ないようでございますので、本日、予定しておりました議事につ いては、すべて終了とさせていただきます。</p> <p>皆様から大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます</p>

司会	<p>ました。</p> <p>—閉会—</p> <p>小林委員長、本当にありがとうございました。本日は、ご意見、ご質問を含め、ご提案など頂きまして、誠にありがとうございました。</p> <p>いただきましたご意見等につきましては、担当課へつなぎまして、よりよい方向に進めていきたいと考えています。ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、第8回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会を終了とさせていただきます。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
----	--